

(1) 概要

英語の基礎力をつけ、将来社会に出たときに必要な英語運用の土台をつくる。あくまで通常の英語の授業の一環であることを生徒に植え付け、学習のモチベーションが下がらないように努める。

(2) 経緯

従来は科学的文章を読み、文中に出てきた科学的文章に特有な語彙の学習を身につけることを中心にしてきた（資料1）。通常の英語の授業では見ることがない語彙に多数触れることができ、生徒にとっては貴重な経験であった。実際に授業を参観した教育実習生も同様の感想を述べていた。しかし、通常の授業ほど、生徒のモチベーションが高くないという側面もあった。

一方では『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』が平成15年度に策定されるなど、高等学校でも実践的英語力の養成が求められる時代となった。

そこで今年度はS S H英語の授業の持ち方を検討し、「科学的な英語」に特化するのではなく、実践的な英語の基礎力を養成することを目標とするにいたった。科学的文章や語彙に触れるのは、さらなる高等教育の場でも可能であると判断したためである。

(3) ねらい

通常の英語の授業で「リーディング」「ライティング」は扱っているため、「リスニング」を中心に据えることとした。「リスニング」は実践的英語力の重要な一部であるにもかかわらず、生徒の家庭学習にまかせっきりになることがこれまで多かったからである。また、模擬試験などの外部試験の結果から、リスニング力向上なくして英語力の向上はない、との結論が導かれたこともその理由である。あわせて、やはり英語の基礎力の重要な一部を担う語彙力をつけることも目指した。

また、外部講師を招聘して講演をいただき、生徒の英語学習のモチベーションを高めることをねらった。

(4) 授業の運営

ア 単語小テスト（2週間で30語身につけるように指導し、その範囲でテストを実施する）

イ リスニング演習（資料2）

(5) 効果の検証

リスニングという短期間では評価しづらい技能であるため、本来は長期的な視野での検証が必要である。ここでは4月からの指導のまとめとして7月に受検した「GTEC for Students」（（株）ベネッセコーポレーション）という英語コミュニケーション能力を測定するテストの結果と同社が実施した11月進研模試の結果を示し、ここまでの指導の効果を検証することとする。

現2年生は1年次の11月にも同テストを受検しており、この2回の間スコアがどれだけ伸長しているかをみるのがこのテストの狙いである。このテストの「リスニング」部門では215点以上（320点満点）を取った生徒数は11月の36人から119人へと大きく増加した。この授業もその一因と言えよう。一方で11月進研模試の結果によると、成績上位者と下位者の間で最も大きな点差がついたのがリスニング問題であった。前述したように英語力はリスニング力に比例するようである。今後授業の持ち方をさらに研究し、現在英語が苦手な生徒諸君の一助にしていきたいと考

えている。

資料1 従来の授業で使った語彙プリント

S S H words & phrases (9)

3 . 0 4

elements	元素
copper	銅
potassium	カリウム
sodium	ナトリウム
tin	スズ
zinc	亜鉛
bromine	臭素
carbon	炭素
chlorine	塩素
fluorine	フッ素
iodine	ヨウ素
phosphorus	リン
silicon	ケイ素
sulphur	硫黄
conductor	伝導体
brittle	もろい
insulator	絶縁体
compound	化合物
molecule	分子
sulphuric acid	硫酸

3 . 0 5

mixture	混合物
distilled water	蒸留水
alloy	合金
brass	真鍮
bronze	青銅
dissolve	溶ける
solution	溶液
solute	溶質
solvent	溶媒

2年生「SSH」の英語授業について

この2つの授業はリスニング力をつけることを主体に行っていきます。生徒は予習の必要はありませんが、英単語の小テストの勉強をしてもらうよう指示します。以下に授業の進め方についてまとめます。よろしくお願いいたします。なお、教材はテキスト本体とその解答・解説です。

英単語小テスト

テキスト1レッスンを全部解答させる

答え合わせと解説

テキスト、もう1レッスンを全部解答させる

答え合わせと解説

解答した2レッスンの中からある程度の分量の英語を全てディクテーションさせる

- ・ある程度の間隔をおき、5～7回ほど同じスクリプトを再生してください
- ・何回聞いても、どうしても書き取れない部分は聞こえたままの「音」をカタカナで書くように指示してください
- ・ディクテーションさせるスクリプトはこちらで決めますが、各担当の先生方で適宜決めていただいても構いません
- ・何度もスクリプトをリピートさせるのは面倒ですが、以降が授業のメインと位置づけられますので、よろしくお願いいたします。

各自で解答と自分で書き取ったものを照らし合わせ答え合わせ

- ・語彙力不足で書き取れなかったのか、音を聞き取れず書き取れなかったを確認するように指導してください。語彙力不足だった場合はその語を覚えるようにご指導下さい。

頃合いを見て、再度スクリプトを再生させ、リエゾンなどの現象について解説

- ・先生方の「耳」が許す範囲で結構です
- ・における、「音を聞き取れなかった」場合の解説にもなります。

もう1スクリプト同様のことを行う

ディクテーションした2つの英文を音読

- ・1～2回ではあまり効果がありません。せめて5回くらいは同じスクリプトを音読させましょう。

（補足）なぜリスニングを行うのか？という質問については

「科学者にとって英語は不可欠なツールであり、実践的に英語を使いこなすことは現在の社会からの要請でもある。リスニングはその実践的な英語運用の重要な土台となるものだ」

という考えのもとに出てきた発想であり、その手前にある大学入試を突破する上でも当然必要な力であるからだ、としておきましょう。